

京都大学総合博物館所蔵楔形文字粘土板資料 (1)

—— 古バビロニア時代不動産売買文書* ——

A Real Estate Contract from OB Dilbat
housed in the Kyoto University Museum

森 若 葉
Wakaha MORI

Abstract The tablet discussed in this paper is one of the unpublished cuneiform tablets in the Kyoto University Museum. Kyoto University houses sixty cuneiform tablets, which were donated by Oxford University in the early 20th century. Fifty-five of the Sumerian tablets were published by Prof. Nakahara between 1927 and 1928.

The cuneiform tablet discussed in this paper records a real estate contract in Akkadian. It indicates that *Nahil*, son of *Iddin-Lagamal*, bought a *burubalûm* plot. The tablet also carries the personal name *Apil-Sîn*, which refers to the fourth king of the First Babylonian Dynasty and grandfather of *Hammurabi*. This indicates that it was written during his reign (1830-1813 BCE). It is supposed that the tablet is one of the documents of the *Ili-amranni* family archive at Dilbat.

Keywords cuneiform tablet (楔形文字粘土板), Akkadian (アッカド語), OB Dilbat (古バビロニア期デルバト), Kyoto University Museum (京都大学総合博物館)

* 資料調査を許可して下さった京都大学総合博物館、とくに村上由美子氏、横山操氏には調査のさいに大変お世話になりました。ここに感謝申し上げます。本稿執筆にあたり有益なご助言をくださった中田一郎先生、前川和也先生、川崎康司先生、山田重郎先生に感謝いたします。とくに中田一郎先生には専門的なご助言を数多くいただきました。感謝申し上げます。

なお、本稿で使用する略号は次のとおりである。AM = Ashmolean Museum. AS = Apil-Sîn. CAD = M. T. Roth et al. (eds.), *The Assyrian Dictionary of the Oriental Institute of the University of Chicago*. Chicago: The Oriental Institute of the University of Chicago. Gautier = Gautier, J. -É. (1908) *Dilbat, Archives d'une famille de Dilbat au temps de la première dynastie de Babylone*. Le Caire: Imprimerie de l'Institut Français d'Archéologie Orientale. Sm = Sin-muballit, TLB 1 = Leemans, W. F. (1954-1964) *Tablae Cuneiformes a F. M. Th. de Liagre Böhl Collectae, Leidae Conservatae I. Old Babylonian Legal and Administrative Documents*. Leiden: Nederlands Instituut voor het Nabije Oosten.

は じ め に

京都大学総合博物館には、古代メソポタミア楔形文字関連の資料として、20世紀初頭にオックスフォード大学から京都大学に寄贈されたものを中心に60点の楔形文字粘土板と1点の円筒印章が収蔵されている。これらの粘土板は、中原（1927）に次のように紹介されている：「濱田教授が滞英中、オックスフォード大学の故アッスリア学講師 C. J. Ball 博士の蒐集になるニップール出土の楔形粘土板文書の一部を譲受将来されしもの五十六個と Sayce 博士、Ball 博士、故内田博士等の寄贈になる四個とを合した六十個のタブレットが京都大学文学部陳列館に所蔵されてゐるが、其等のタブレットは夫々シュメール語、ハッチ語、アッスリア語の楔形文字で書かれてゐる。」

これらの一群の資料は、基本的に博物館番号 993 が付されている。中原（1927）、および Nakahara（1928）において55点のシュメール語粘土板（アッカド王朝期資料1点、ウル第三王朝期資料54点）が出版されたが、残りの粘土板5点（シュメール語資料1点、アッカド語資料3点、ヒッタイト語資料1点）は未公開のまま残されている¹⁾。

これらの未出版の粘土板について、京都大学総合博物館の許可のもと、山本孟氏と共同で調査をすすめている²⁾。

本稿では、未公開のアッカド語粘土板のうち、古バビロニア時代初期の不動産売買文書について報告を行う。

I 粘土板の概要

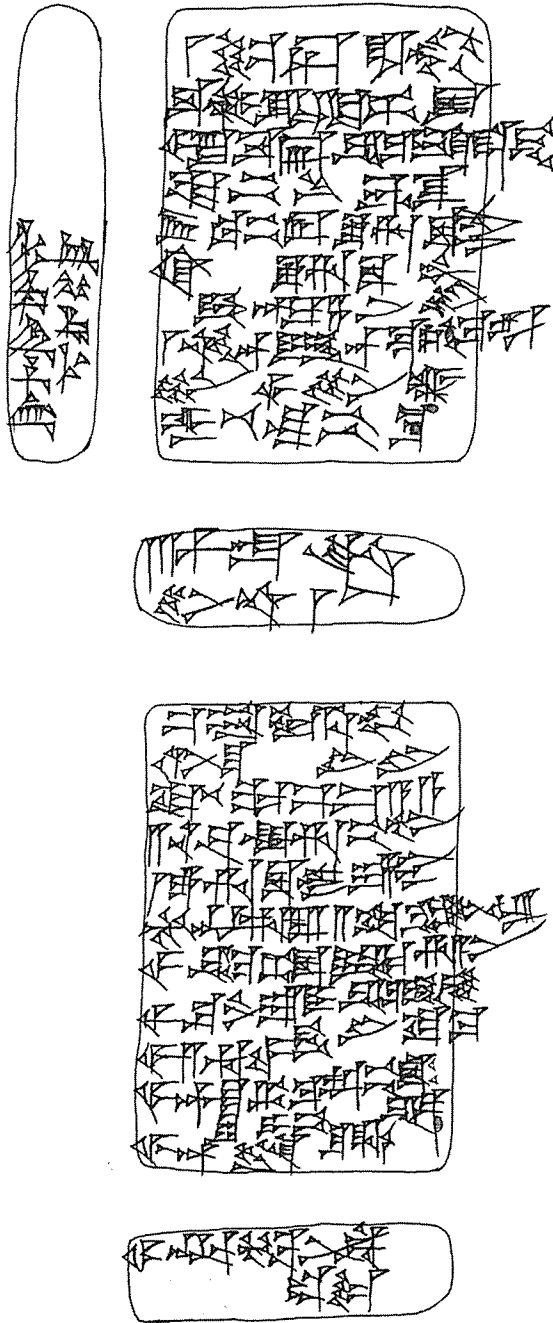
この粘土板は、縦5.9 cm×横4.2 cm×厚さ1.9 cmで縦長の形状で、アッカド語が刻まれている。バビロン第一王朝時代（前1830-1813）に作成された不動産売買記録で、裏面6行目にアピル・シンの王名があらわれる（図1）。粘土板上部エッジ箇所に、博物館番号が記載されていたと思われるシールが添付されているが、インクが消失しており番号は現在不明になっている。大正4年の京都帝国大学文学部博物館購入記録にある「ボール氏寄贈のハム

1) 未公開資料のうち、シュメール語粘土板1点としたものは、濱田耕作編（1928）『京都帝国大学文学部陳列館考古圖録 増訂新版』の第110にあげられている「ニップール発見文書（5）」である。同資料の説明にシュメール語との記載はないが、同書に付された英語目次には、Sumerian Tabletと記載されている。掲載されている写真は裏面のみで、シュメール語人名等が確認できる。オックスフォード大学から寄贈されたさいの京都帝国大学文学部博物館購入記録帳によると、57点の楔形文字資料は、「Nippur（付近）発見」と記載されている。

2) 山本孟氏によってアケメネス朝時代のアッカド語資料についての論考は、「京都大学総合博物館所蔵楔形文字粘土板資料（2）—アケメネス朝時代バビロニアにおける売買契約文書」として本稿と同じ号に掲載されている。



図1 京都大学総合博物館所蔵古バビロニア時代粘土板写真



(上部エッジ空白部には、図1の写真で確認できるように、所蔵番号が記されていたと考えられる縦6mm×横12mmのシールが添付されている。)

図2 京都大学総合博物館古バビロニア時代粘土板ハンドコピー

ラビ時代の粘土板」にあたと推定される³⁾。表裏両面のほか上下、左のエッジ部分にも楔形文字が刻まれている (写真1⁴⁾)。アッカド語であるが、ほとんどがシュメール語表語文字 (スメログラム) で表記されている (翻字ではブロック体で表記)。

II 翻字と翻訳

京都大学総合博物館所蔵古バビロニア時代アッカド語粘土板 (5.9 cm×4.2 cm×1.9 cm)

I. 翻字

表面

- 1) l sar é.bur.bal
- 2) da *mu-še* ^dEN.ZU-*ga-mil*
- 3) ù da é ^dEN.ZU-*i-qi-ša-am*[?]
- 4) sag.bi sila.dagal.la
- 5) sa.dúr.bi⁵⁾ é *E-ri-iš-tum*
- 6) ki *E-ri-iš-tum* / dumu.munus ^dUraš-*za-ni-in*
- 7) ¹*Na-hi-il* dumu *I-din-^dLa-ga-ma-al*
- 8) in.š.in.šám
- 9) šám.til.la.bi.šè

Lower Edge)

3 ½ gín kù.babbar / in.na.lá

裏面

- 1) giš.gan.na íb.ta.bal
- 2) ud.kúr.šè lú.lú
- 3) inim nu.um.gá.gá.a.a
- 4) *a-na ba-aq-ri bi-tim*
- 5) ¹*E-ri-iš-tum i-za-az*

3) 濱田耕作編 (1928) 『京都帝國大學文學部陳列館考古圖録 増訂新版』では、この写真の資料が「ダリウス時代文書」とされているが、博物館番号 993-90 のアケメネス朝時代のアッカド語文書との取り違えと思われる。

4) この粘土板の表面のカラー写真は、『考古図録 (京都大学総合博物館収蔵資料目録 第3号)』(2017) の109頁「付篇：各地の文字資料～楔形文字粘土板を読む」資料番号144に掲載されている。

5) Koshurnikov and Yoffee (1986) においては、sa.dul.s.bi と翻字されている (AM 1951 : 4, 5 : AM 1951 : 7, 5)。

- 6) mu ^dUraš ù A-pil-^dEN.ZU in.pàd
- 7) igi ^dEN.ZU-ga-mil dumu ^dEN.ZU-re-me-ni
- 8) igi Ma-ni-ia dumu ^dEN.ZU-i-din-am
- 9) igi A-hu-wa-qar ¹⁰šitim.ma
- 10) igi ^dLa-ga-ma-al-ga¹-mil / dumu I-bi-^dEN.ZU
- 11) igi ^dŠEŠ.KI-šu.peš

Upper Edge)

igi ^dUraš-mu-ba-lí-ī / dub.sar

Left Edge)

iti še.KIN.ku₅ / mu.en.te.an.ki

2. 翻訳

表面

- 1) 1 サル (約 36 m²) のブルバルム物件 (é burubalūm)⁶⁾。
- 2) 隣は、シン・ガミル (Sin-gāmil) の通路、
- 3) (もう一方の) 隣は、シン・イキシヤム (Sin-iqīšam) の家である。
- 4) その前面は、大通り、
- 5) 背面は、エリシュトゥム (Erištum) の家である。
- 6) ウラシュ・ザニン (Uraš-zānin) の娘、エリシュトゥムから、
- 7-8) イディン・ラガマル (Iddin-Lagamāl) の子、ナヒル (Nahil) が購入した。
- 9) その売買価格として、

Lower Edge) (彼は) 3 ½ シェケルの銀を彼女に支払った。

裏面

- 1) 売買 (契約) は締結された。
- 2-3) 後日、誰も申し立てをしないこと、
- 4) (この) 不動産のいかなる要求についても、
- 5) エリシュトゥムが責任をもつ。
- 6) ウラシュ神とアピル・シン王の名にかけて誓約を行った。
- 7) 証人：シン・レメニ (Sin-rēmenni) の子、シン・ガミル (Sin-gāmil)。
- 8) 証人：シン・イディナム (Sin-iddinam) の子、マニヤ (Maniya)。
- 9) 証人：煉瓦工のアフ・ワカル (Ahu-waqar)。

6) 以下、本稿では、古バビロニア時代の楔形文字資料で、é burubalūm と説明される不動産をブルバルム物件と訳出している。

10) 証人：イビ・シン (Ibbi-Sin) の子, ラガマル・ガミル (Lagamāl-gāmil)。

11) 証人：Nanna-ŠU.PEŠ。

Upper Edge) 証人：書記のウラシュ・ムバツリト (Uraš-muballit)。

Left Edge) アピル・シン治世…年, 第12月。

3. 注釈

・1行 ブルバルム物件 (*é burubalūm*)

CADによると, *burubalūm* は, “unimproved land (?)” と説明される。また, Koshurnikov and Yoffee (1986) では, “deserted house”, Goddeeris (2002) は “unbuilt land” としている。このアッカド語単語 *burubalūm* と関連するとみられるシュメール語の単語 *buru₁₄-bal* は, ウル第三王朝時代に耕作地について用いられることが知られている。*buru₁₄-bal* については, Steinkeller (2017: 565) が “fallowed land, lit.: “harvestable (land) under rotation”, Maekawa (1988: 73) は “land to be left fallow” としている。通常の家には比安価で売買されており, 空き家で放棄されている家を指すのではないかと考えられる。

・2行 シン・レメニの息子, シン・ガミル

シン・レメニ (*Sîn-rēmenni*) の息子, シン・ガミル (*Sîn-gāmil*) は, デイルバト出土粘土板である Gautier 16, 10-11 に同一人物とおもわれる記述がみられる。シン・レメニの息子との記述はないが, 本稿粘土板裏面7行目にもあらわれる人名である。

・6行 ウラシュ・ザニンの娘, エリシュトゥム

このウラシュ・ザニン (*Uraš-zānin*) の娘, エリシュトゥム (*Erištum*) という人名も, 同じく Gautier 16, l. 2-3 にあらわれる。また, 別のデイルバト出土粘土板 AM1951: 2 [Sm14] (Koshurnikov and Yoffee 1986) では, ウラシュ・ザニンの娘との記載はないが, エリシュトゥムの家の隣に位置する ½ サル (18 m²) の *burubalūm* を, 本稿の粘土板と同じくイディン・ラガマル (*Iddin-Lagamāl*) の息子であるナヒル (*Nahil*) が購入したとする記録がある。

・7行 イディン・ラガマルの息子, ナヒル

古バビロニア時代デイルバトのイリ・アムランニ (*Ili-amranni*) 一族の「家族文書 (family archive)」に数多くあらわれる人名で, アピル・シン治世年代 [AS] と, その息子であるシン・ムバツリト治世年代 [Sm] にみられる (Gautier 12 [AS14?], Gautier 16 [AS], Gautier 18, 8 [Sm2]; Gautier 19, 2/8 [Sm6], Gautier 20 [Sm8], Gautier 29, 2/6, Gautier 30, 1/6; Gautier 36, 3/7/11; AM1951: 2, 14 [Sm14]; AM1951: 3, 5/12 [AS13]; AM1951: 4, 2/5/11 [Sm2]; AM1951: 7, 3/7 [Sm3]; YOS 14, 154, 5' [Sm]; TLB 1, 235, 9'; TLB 1, 237, 13 [Sm 7 (?) ほか)。このうち, 少なくとも Gautier 12, Gautier 16, Gautier 20, Gautier 29, AM1951: 2, AM1951: 3, AM1951: 4, AM1951: 7, TLB 1, 237 は本稿粘土板と同じくブルバルム物件購入の文書である (AM1951: 2 [Sm14] は, 隣がエリシュトゥムの家で, 前面

が大通りの物件, AM1951:3 [AS13] は, 隣がシン・ガミルの通路, 前面が大通りの物件である)。ナヒルがディルバトで多くのブルバルム物件を購入していることがわかる。

・裏面6行 ウラシュ神

古バビロニア時代の文書において, ウラシュ神は, ディルバトもしくはシッパルの粘土板にあらわれる (Simmons 1978: 10)。

・Left Edge mu-en-te-an-ki (年名)

裏面6行に神名と並んでアピル・シン王の名にかけて誓約が行われていることから (mu^d Uraš ù A-pil-^dEN.ZU in.pàd), アピル・シン治世の年名であることがわかる。ただし, 同じ年名があらわれる資料がなく, アピル・シン治世何年かは不確定である。Gautier 16の年名 [mu...E]N³.AN.KIに近い。

III 粘土板の内容

この粘土板は, 記述内容から, ディルバト (Dilbat) 出土の粘土板である。ディルバトはバビロン近くの町で, 古バビロニア時代, 首都バビロンの穀物供給地であった。Goddeeris (2002: 225-26) によると, ディルバトは Tell Deylem であり, 1000枚以上の粘土板が各地の博物館等に収蔵されている。およそ400枚の古バビロニア時代の粘土板が出版されている。

古バビロニア時代のディルバトには2つの文書群が知られている [Goddeeris 2002: 226]。その1つが, イリ・アムランニ (Ili-amranni) 一族の「家族文書 (family archive)」で, バビロン第一王朝初代王のスム・アブム (Sumu-abum)⁷⁾ 治世 (前1894-前1881) から第7代王サムス・イルナ (Samsu-iluna) 治世 (前1749-前1712) の間の主として不動産取引にかんする法律文書群である。本稿の粘土板はこの文書群に属するものと考えられる。Goddeeris (2002) では, イリ・アムランニの息子であるイディン・ラガマル (Iddin-Lagamāl), さらにイディン・ラガマルの息子であるナヒル (Nahil) による不動産売買を中心に52枚の粘土板が扱われており, burubalūm 物件の取引文書が11点ある。

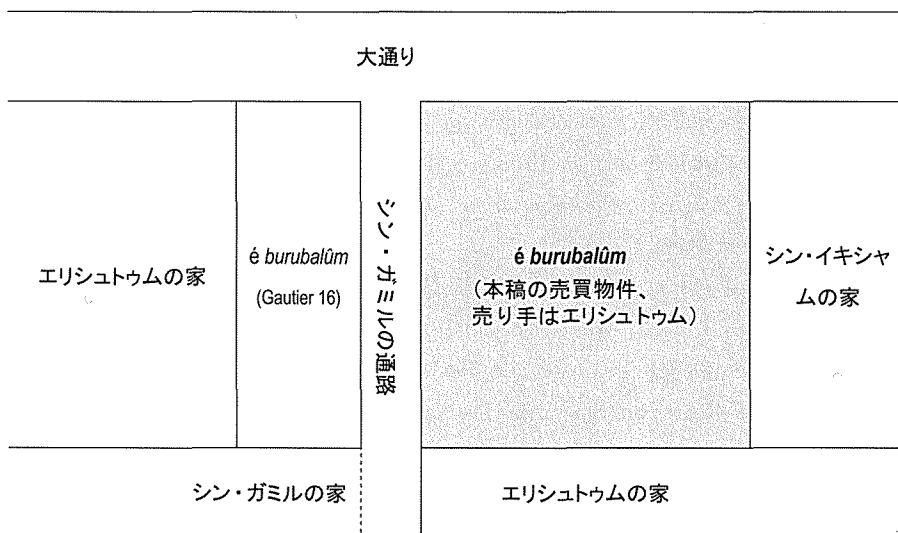
京都大学総合博物館所蔵の粘土板は, 古バビロニア時代ディルバトのイリ・アムランニ一族の「家族文書」に属するもので, イリ・アムランニの孫であるナヒルによる burubalūm 物件購入文書である。

そのなかでも, Gautier (1908), *Dilbat, Archives d'une famille de Dilbat au temps de la*

7) 「バビロン王名表」で初代の王とされるスム・アブムは, バビロニア北部の宗主的存在であった可能性があり, のちに「バビロン王名表」が編纂される段階で, バビロン第一王朝初代王として取り込まれたと考えられる。「バビロン王名表」で第二代の王とされているスム・ラ・エルが, 近隣のボルシッパ, ラガバ, ディルバト, クタなどの諸都市を統合, またカザル, キシュ, ダムルム, およびシッパルなどの小王国を短期間のうちに征服してバビロニア北西部一帯を支配下におさめたバビロン王国の建国者であったと考えられる [中田 2014: 20-21]。

première dynastie de Babylone で扱われている Gautier 16 に内容が近いものである。Gautier 16 は欠損箇所が多い粘土板であるが、同じくアピル・シン時代の文書で、 $\frac{1}{2}$ サル (約 12 m²) の *burubalûm* 物件の売買が記されている。売買物件の立地は、エリシュトゥムの家とシン・ガミルの通路の間に位置し、前面が大通りで背面はシン・ガミルの家である。売り手はシン・レメニの子、シン・ガミルである。買い手の名は欠損している⁸⁾。

京都大学総合博物館所蔵粘土板で売買されている物件は、1 サル (約 36 m²) の *burubalûm* で、シン・ガミルの通路 (私有地) とシン・イキシヤムの家の間に位置し、前面が大通りで、背面はエリシュトゥムの家である。売り手はエリシュトゥムで、買い手はナヒルである。もし、シン・ガミルの通路が同じものであるなら、下記のような立地が想定されうる。



Gautier 16 の粘土板では、年名箇所は、一部欠損しており、アピル・シン治世の何年かは同定されていないが ([mu...] en-an-ki⁹⁾), その記述は、本稿の粘土板のものと近い。シン・ガミルの通路を挟んで、両側の *burubalûm* 物件 48 m² がアピル・シン治世の近い年代に売買されていることになる。Gautier 16 の買い手もナヒルである可能性がある。ナヒルが

8) Gautier 16, Obverse 1) $\frac{1}{2}$ sar é.bur.bal, 2) da é E-ri-iš-[tim]..., 3) dumu.munus ⁴Uraš-za-ni-in 4) ù da mu-šu-u-um, 5) ša ⁴EN.ZU-ga-mil, 6) sag.bi sila.dagal.la, 7) sa.dúr.bi é ⁴EN.ZU-ga-mil, ... 10) ki ⁴EN.ZU-ga-mil, 11) dumu ⁴EN.ZU-ri-me-ni

9) Gautier 16 のハンドコピーは、en-an-ki のように読める。Horsnell (1999: 90) は、[mu... E]N³.AN.KI と翻字し、アピル・シン時代であるが、年名は同定できないとしている。Horsnell はその注釈 75 において、Al-Rawi が Gautier 16 の年代を暫定的にアピル・シン 8 年 (アピル・シン 9 年) としていることにたいし、可能性はあるがまったく確かではないとしている。この箇所は、左側エッジ部分 2 行目の最後の部分にあたり、その前の部分は完全に欠損している。欠損文字数の推定も難しい状態である。Goddeeris (2002: 236) は、Gautier 16 の年代をアピル・シン 11 年としている。

取得した2つのブルバルム物件 (AM1951:2 [Sm14], AM1951:3 [AS13]) も本稿の粘土板の内容と関連がある可能性がある。AM1951:2 は、シン・ムバリト 14 年にエリシュトゥムの家とシヤトゥム (Siyatum) の家の間に位置し、前面が大通りで背面がウフム (Uhhum) 所有のブルバルム物件をナヒルが購入した資料である。また、AM1951:3 は、アマール・シン 13 年のもので、片側がシン・ガミルの通路で、前面が大通りの物件についての記載がある。

この京都大学総合博物館所蔵のディルバト出土の粘土板は、バビロン第一王朝アピル・シン時代の年名について、あらたな情報を提供する重要な資料である。

参考文献

- Cohen, M. (2015) *Festivals and Calendars of the Ancient Near East*. Bethesda: CDL Press.
- Dalley, S. and N. Yoffee (1991) *Old Babylonian Texts in the Ashmolean Museum. Texts from Kish and Elsewhere*. Oxford Editions of Cuneiform Texts. Vol. XIII. Oxford: Clarendon Press.
- Dekiere, L. (1994-97) *Mesopotamian History and Environment. Series III. Texts, Vol. II. Old Babylonian Real Estate Documents from Sippar in the British Museum*. Part 1-6. Ghent: The University of Ghent.
- Van Dijk, J. (1966) *Texts in the Iraq Museum III. Cuneiform Texts. The Archives of Nürsamasā and Other Loans*. [TIM 3]. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- Gautier, J.-É. (1908) *Dilbat, Archives d'une famille de Dilbat au temps de la première dynastie de Babylone*. Le Caire: Imprimerie de l'Institut Français d'Archéologie Orientale.
- Goddeeris, A. (2002) *Economy and Society in Northern Babylonia in the Early Old Babylonian Period (ca. 2000-1800 BC)*, OLA 101. Leuven: Peeters.
- Goddeeris, A. (2016) *The Old Babylonian Legal and Administrative Texts in the Hilprecht Collection Jena*. Part 1, 2. TMH 10. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
- Horsnell, M. J. A. (1999) *The Year-Names of the First Dynasty of Babylon*. Vol. 1-2. McMaster University Press.
- Koshurnikov, S. G. and N. Yoffee (1986) Old Babylonian Tablets from Dilbat in the Ashmolean Museum. *Iraq* 48: 117-130.
- Leemans, W. F. (1954-1964) *Tabulae Cuneiformes a F. M. Th. de Liagre Böhl Collectae, Leidae Conservatae I* [TLB 1] *Old Babylonian Legal and Administrative Documents*. Leiden: Nederlands Instituut voor het Nabije Oosten.
- Nakahara, Y. (1928) *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko (The Oriental Library)*. no. 3, Tokyo.
- Maekawa, K. (1988) The Management of Domain Land in Ur III Umma: A Study of BM 110116. *Zinbun* 22: 25-82.
- Simmons, S. D. (1978) *Early Old Babylonian Documents (YOS XIV)*. New Haven and London, Yale

University Press.

Steinkeller, P. (2017) An Estimate of the Population of the City of Umma in Ur III Times. In Heffron, Y. et al. (eds.) *At the Dawn of History. Ancient Near Eastern Studies in Honour of J. N. Postgate*. Volume 2. Winona Lake, Indiana : Eisenbrauns.

京都大学総合博物館編 (2017) 『考古図録 (京都大学総合博物館収蔵資料目録 第3号)』 京都大学総合博物館.

中田一郎 (2014) 『ハンムラビ王 — 法典の制定者』 山川出版社.

中原与茂九郎 (1927) 「京都帝国大学所蔵ウルク国王シンガシドの粘土板碑文の解読と解説」『史林』第12号 (3). 79-91 頁.

中原与茂九郎 (1957) 「西アジア学の発祥」『西南アジア研究』第1号 (1). 5-6 頁.

濱田耕作編 (1928) 『京都帝國大學文學部陳列館考古圖録 増訂新版』 京都帝國大學文學部.

山本孟 (2018) 「京都大学総合博物館所蔵楔形文字粘土板資料 (2) — アケメネス朝時代バビロニアにおける売買契約文書 —」『西南アジア研究』第87号. 58-72 頁.

(国士館大学イラク古代文化研究所)